

香港博物館

松 浦 章

I

香港（ホンコン）は現代の多くの日本人にとって買物旅行の重要な目的地の一つに過ぎないが、中国の近現代史を研究する者からすれば重要な地であることは言うまでもない。とりわけ、現代の中国研究者にとり香港は中国の動向を知る上での重要な情報源であって、今日もそれに変わりはない。しかし、香港そのものの歴史を正當に取り扱われることはそれほど多くは無かった。その香港の歴史を映像資料等を使用して、また都市の商店の一部等を再現して見せてくれる博物館がある。それが、香港博物館である。

香港博物館は香港・九龍尖沙咀海防道九龍公園にある。香港島と九龍を結ぶスターフェリーの九龍側埠頭から少し北にあり、香港の九龍側の繁華街で有名な彌敦道（ネーザン道路）の西側にある九龍公園内にある。見物し易い場所にあるが、日本人観光客が訪れることは少ないようである。

II

香港は面積は1070平方 km で、香港島を含め236の島と九龍半島とその北に続く新界からなる領土によって構成され、英語と広東語が公用語である。気候は亜熱帯性気候で、人口は約600万人で、外国人の在住者も多く1993年4月現在でフィリピン人9万7千人、アメリカ人2万6千人、イギリス人2万1千人、タイ人1万9千人、インド人1万9千人、カナダ人1万9千人、



①香港博物館

オーストラリア人1万6千人、日本人1万4千人、マレーシア人1万3千人もの人が居住していると言われる（『香港；Hong Kong Now!』1995年4月号、アジア・ビジネス・プレス・ホンコン・リミテッド）。

香港島は中国の清代にあっては幾つかの漁村があるに過ぎない地であったが、1840年に起こったアヘン戦争後に清朝とイギリスの間で締結された1842年の南京条約によって、清朝からイギリスに割譲された。その後、1856年に発生したアロー号事件を契機に起こったアロー戦争、第2次アヘン戦争後の1860年の天津条約によって、香港島に接する九龍半島がイギリスへ割譲された。九龍半島の北側の地、新界はイギリスが香港防衛を口実に1898年に清朝政府より99年間の期限をもって租借したものである。その期限が1997年に迫っているのである。

III

香港博物館は金曜日が休館日で、平日は午前10時から午後6時まで、日曜日と香港の祭日は午後1時から午後6時まで開館している。入館料は大人が10香港ドル（約120円）、児童、学生と60才以上の方は5香港ドルと廉価である。常設展示として香港の歴史が概観できる「香港故事」を行っている。全て九つのコーナーに分けて香港の先史時代から現代までの歴史を知ることができる。

第一展示は「自然環境」である。ここでは香港の気候、地質、地形等から香港に生息する動物、植物等を紹介している。

第二展示は「早期居民」である。香港で発見された先史時代からの考古学的遺物が展示されている。

第三展示は、「農村」である。ここでは主に九龍の北に位置する農村を中心に、農村での人々の生活習慣や風俗、信仰に関する展示を行っている。

第四展示は、「城市」である。展示内容の時期



②香港博物館、商店の再現

は1841-1851年の10年間であって、アヘン戦争後からの10年間における自由貿易港としての早期の香港の状況についての展示である。

第五展示も「城市」であるが、1852-1862年迄の香港の発展であるが、この時期には香港島に加え九龍がイギリスに割譲され、領域が拡大発展していく地域における人々の信仰の対象であった廟や苦力貿易や、南北行と言われる各地の物産を扱う商店などに関する展示がある。

第六展示も「城市」であり、1863-1893年の30年間における香港の貿易の発展を中心に、海運業、通信業、銀行業務や工業の進展の状況を表示しているが、さらに大陸からの移民による人口増加によって発生する様々な社会問題に対応する一面として、東華医院や保良局と言われる香港居住の人々の厚生面を保護する機関が設立されたことに関する展示である。

第七展示も「城市」であり、展示内容は1894-1941年までの期間である。この時期に新界が租借されその領域は拡大した。中国では1911年に起こった辛亥革命の影響が、香港の中国人社会にも思想面や生活面でも影響を及ぼしたこと。また交通、教育、軽工業の分野でもさらなる発展があったことを展示している。

第八展示は「日治時期」である。1941-1945年



④ヴィクトリアピークから見た九龍（手前は香港島）



③19世紀末の香港（香港博物館の再現壁画）

の時期に、アジア・太平洋戦争の間に日本軍が香港を占領し、香港住民が日本軍の統治下におかれた三年八ヶ月間の軍政下の香港住民の生活等の状況についての展示である。展示されている期間としては最も短い時期を扱った内容であるが、それだけに香港の人々にとって今でも大きな傷として残っていることは紛れもない事実であることを痛感させられる。

第九展示は「当代香港」は1945年以降の現代の香港の発展ぶりをつぶさに展示している。とりわけ世界経済の中で占める香港の役割、世界有数の金融センターである香港を経済、社会、政治、文化の面から国際都市としての香港を誇示する展示である。（以上、香港博物館「香港故事 The Story of Hong Kong」1994年1月参照）

IV

今日、人工衛星によって全世界のニュースが同時にテレビ等を通じて知られる情報のポダレス時代になったが、つい最近まで中華人民共和国の政治等のニュースは香港から一早く世界に伝えられるなど、チャイナ・ウォッチャーにとって香港は重要な都市であり、現在もそれに変わりはない。しかし、1840年に起こったアヘン戦争以降において、地域的には小さい香港が、世界史上に占める役割は決して小さいものではないことを香港博物館の「香港故事」は如実に示してくれる。

なお香港博物館は『香港歴史資料文集 Collected Essays on Various Historical Materials for Hong Kong Studies』香港博物館編製、香港市政局出版、1990年10月）等、多くの出版物を刊行しており香港史、中国近現代史研究に貴重な資料を提供しているが、日本では入手しづらい。